

公1 農林水産業担い手青年の育成に関する事業 (平成30年度)

①農業青年プロジェクト活動支援事業(単協) 助成実績

【25団体 1,071,000円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	西海市青年農業者の会	芋ほり体験による食農教育	地元保育園児を対象に芋ほり体験を行い、農業や地域の食べ物について理解を深めてもらい「食」「農」の大切さを伝えた。今後は芋ほりだけでなく、苗を植えるところからの実施を検討している。
2	いさはや4Hクラブ諫早支部	青年農業者の未婚の原因究明と解決案の検討	アンケート調査に併せて婚活イベントを実施。アンケート調査により、青年農業者との結婚に対して、決まった休日がない事が不安であると判明し、今後の働き方に対し考える機会となった。また、婚活イベントでは1組のカップルが成立し、同時に諫早市産の農産物のPRにもつながった。
3	いさはや4Hクラブ飯盛支部	環境制御による施設きゅうりの可能性！ ～目指せ販売額1億円産地へ～	環境制御技術を用いた温湿度管理等により、収量向上の可能性を調査。環境制御により温度および二酸化炭素濃度を管理されたハウスの樹勢は良好で、生育の差は顕著であった。また二酸化炭素濃度については湿度管理のために密閉される施設内において、冬場に低下しがちであることから、その発生装置の導入は効果的と考える。自己の生産技術・知識の向上を図りながら環境制御技術の効果を発信し、産地全体の意識向上と設備導入および効果的な利用を定着させることにより、1億円産地の可能性はより実現性の高いものになると感じた。
4	大村市青年農業者会	落花生プロジェクト ※アグリネットフォーラムに最優秀賞を受賞	B級品の有効活用について、おおむら夢ファームシュシュの協力のもと、パンとアイスを試作。商品化され期間限定で販売を行った。原料としてB級品の落花生を80kg納品、B級品の販路の糸口を掴むことができた。今後は反収の増加やB級品の販路拡大、加工品の本格販売に向けて取組む。
5	東彼杵町青年農業者連絡協議会	Challenger (主要品目であるお茶の補完作物の確立を目指す)	茶の補完作物の検証および耕作放棄地解消を目的とし、人参および茶の生産・管理を共同で実施したが、管理不足・猛暑の影響により収穫に至らず、収支・労力面からみても、茶との複合経営は難しいと感じた。収入を得るためには別作物の再検討をする必要がある。
6	長崎県三会4Hクラブ	産地の長期的発展を見据えた婚活および 地元農産物マーケティングプロジェクト	婚活イベントを行う中で、地元農産物を使ったバーベキューを開催し消費拡大を図った。また、長崎市で「島原産農産物を活用したおもてなし」のイベントも開催し、参加女性にPRを行った。婚活イベントでは2名が実際に発展、うち1名は結婚することとなった。
7	島原市安中4Hクラブ	土地改良を目的としたダイコン栽培	腐植酸を施用することで堆肥の代用品として活用できることを学び、少ない労力で土壌の改良ができることを目指した。結果、昨年度より高い収量を得ることができ、葉数は慣行区より少なかったものの、根長・重量等は試験区の方が良く、土壌改良の効果も見られた。
8	有明町青年農業者連絡協議会	農産物直売による収益向上プロジェクト もうかる直売に向けて	「島原ふるさと産業まつり」において、低価格でかつ利益を見込める販売(袋詰販売)を行い、アンケート調査を実施した。結果、予想を上回る速さで完売し、一定の収益を得ることができた。購買者は2~3人世帯を抱える女性が多く、セット販売にも需要があることが確認できた。
9	吾妻町青年農業者連絡協議会	～ブロックリーはじめましたpart3～ 地域で発生した牛糞堆肥を施用、化学肥料減肥の可能性について検討	4つの区画(①堆肥慣行+化成肥料慣行区 ②堆肥増量+化成肥料慣行区 ③堆肥増量+化成肥料半量区 ④堆肥なし+化成肥料慣行区)を設け、生育と収量性の比較試験を行ったところ、堆肥増量区は葉長・葉幅とも大きく、収穫期が前進した。化学肥料を低減しても慣行区と遜色ない収穫物が得られたので、今後は地域への堆肥の普及を行い耕畜連携を図る。
10	千々石町農業研究会	千々石町青年イノシシ対策実施隊 狩猟免許の取得・捕獲など農業がしやすい環境づくり	町内で農業がしやすい環境づくりのため、6名の会員が狩猟免許を取得、狩猟者の低年齢化を図った。また、雲仙市鳥獣被害対策実施隊へ加入し、被害対策の実践経験を積んだ。千々石町初の捕獲隊を結成することにより、狩猟者がいない地域への捕獲体制を形成した。
11	小浜町農村青年振興会	新規作物・環境保全型農業に取組もう ブロックリー編	馬鈴薯は単価の年次変動が大きく収入の安定性に欠けるため、新たな品目の導入(ブロックリー)を行った。牛糞堆肥を使用して土壌改良に取り組み、コート種子を使用し栽培をしたところ、馬鈴薯より良い物ができ、堆肥を利用し収穫まで労力がかからない事がわかった。
12	愛の町農友会	じゃがいもの種イモのサイズの育成の差 大きい種ジャガで収量アップ	普段廃棄される極小の種ジャガを種ジャガとして利用・検証したところ、種ジャガは大きいほどよい結果となることが判明したため、今年は大きい種ジャガを使用し検証を行った。結果、生育・収量ともに大きい方がよい結果となるが、植付機のレーンの枠に入らなくなり、コンテナに一度に入る数量も少なくなることから、作業効率は悪くなることがわかった。
13	国見町青年農業者連絡協議会	耕作放棄地解消から始まる食育活動 Part 2	担い手の減少を食い止めるため、地域の子もたちに食育活動を行い、農業の面白さを伝えたところ、新たに2名の子どもが農業に興味を持ってくれたが、6名は興味なしとのことだったので、今後は興味を持てるような活動が必要。今後は対象を中学生まで広げ活動を継続的にを行い、耕作放棄地解消に繋げたい。

14	瑞穂町青年農業者連絡協議会	牛と鶏の力を大地に projectM ep.1 堆肥編	酪農を行っている会員で畜糞が発生しているため、地元で活動しているEMの団体の協力を得ながら、牛糞と鶏糞を利用した堆肥を作れないか実証した。堆肥づくりには2ヶ月の期間が必要だった。牛糞・鶏糞とも堆肥の分析を行ったところ、市販品と遜色のない良い堆肥が完成した。今後はそれらを利用した野菜づくりに調整していく。
15	南串山町4Hクラブ	ながさき黄金の普及への道のり Part.2 ～収量と知名度のWアップを目指して～	収量アップを目指して、春作で「間引き作業」、秋作では「PH調整」等の試験に取組んだ結果、昨年を上回る収量があった。しかし慣行品種と比較した場合、まだ収量が少ないため、さらなる収入アップを目指す必要がある。また、南串うまかもん祭りでの販売を行うとともに、新たに県内飲食店や加工業者への促進活動を行い、少量ではあるが取引に繋げることができた。
16	深江町4Hクラブ	食育でふるさと深江に恩返し 地域貢献プロジェクト2	深江小学校で、とうもろこし・さつまいもの植え付け、収穫を行った。調理実習では、郷土料理である「べったら餅」を作り、小学生の食への意識が向上し、大成功だった。さつまいもジャムは収穫後の制作となるので、市販化はまだできていない。
17	布津町4Hクラブ	ブロッコリーの育苗方法の検討	ブロッコリーにおいてもキャベツ栽培と同じように、老化苗を定植することで生育が揃うのか試験を行った。収穫調査を実施したところ、慣行苗と老化苗は定植時点では差があったが、生育はいずれも順調だった。収穫開始は慣行苗が早く、老化苗はわき芽が目立った。土が乾いた状態で定植したことで活着が悪かったため全体にばらつきができた。今後は天候を見極めた定植時期の検討とホウ素欠乏対策を行う。
18	有家町青年農業者連絡協議会	酵素資材を使ったブロッコリーの生育比較	4つの区画（①定植後、収穫まで5回散布 ②定植後、生育前半のみ3回散布 ③定植後、生育後半のみ3回散布 ④無散布）を設け、葉数・葉長・出蕾長・収量で調査を行った。葉数・葉長・花蕾長については差は無かったが、出蕾した個体が揃うのは①だった。収量においては、①③が②④より多く収穫できた。このことから、定植後、生育後半の散布がGs酵素の効果を発揮でき、Gs酵素は出荷時期の調整を行うための利用が有効であると考えられる。
19	西有家町農業後継者クラブ	ブロッコリーの肥料で生育比べ 硫安の葉面散布	3つの処理区（①硫安240倍 ②硫安120倍 ③無処理区）を設け、硫安の散布濃度による生育の比較試験を行ったところ、②が最も生育が良かった。今後は葉面散布の時期・回数についても検討したい。
20	南有馬・ロ之津町農村青少年研究会	南島原もったいないプロジェクト～トマト編～	「トマト葉かび病」が問題となっているため、いちご栽培で効果が確認されているハウス内の温度をコントロールして病気を抑制する試験を行った。暖房機の温度設定を行い、夜間の湿度を99%から89～95%へ一時的に下げることができ、トマト葉かび病の発生は試験区・慣行区とも確認できなかった。原因として、トマトの設定温度は10℃、いちごの5℃より温度が高いため、気温が下がると暖房機が動き、湿度が下がりやすいことによるものと考えられる。
21	加津佐町4Hクラブ	安定したレタス生産を目指して 腐食酸を活用	4つの試験区（①畑イ育苗・腐食酸あり ②畑イ育苗・腐食酸なし ③A-バーホット育苗・腐食酸あり ④A-バーホット育苗・腐食酸なし）を設けレタス育成の比較試験を実施した。畑イ育苗は夏場の猛暑によりほとんど枯れたが、A-バーホット育苗は問題なく定植できた。また、腐食酸処理を行った方が、いずれも重量が増加傾向となった。結果、③が最も収量の増加が見られた。
22	佐世保市青年農業者連絡協議会	農家が農家を助けるプロジェクト（援農活動）	活動資金獲得と組織のPRのため、市内イチゴ部会、アスパラ部会、カーネーション部会等へ援農を実施したところ、援農先より好評を受け、所期の目的を達成できた。また、JA南房総、JA旭村、大地事業協同組合にて外国人実習生の受入農家の視察・意見交換を行った。
23	平戸市青年農業者連絡協議会	農の架け橋プロジェクト 北松農業高校生との連携活動	北松農業高校生と、4H会員の圃場・牛舎等での農作業や、一緒に作成したもち米を原料としたもちピザを作り、文化祭・平戸くんち城下まつりにて販売を行った。また、外部講師を招いた講演会・意見交換を行うことにより、4Hという若い農業者の存在を高校生に知ってもらうとともに、農業の魅力を肌で感じてもらうことができた。
24	松浦青年農業者会	新ジャンル野菜の栽培 ピザ釜を使った本格ピザづくり（食育活動）	ダビデの星・レッドホルン・エバーグリーンなど、多品種の栽培に取組んだが、収穫量が少なく提供に必要な量の確保ができなかった。次年度は品種を絞り収穫量を上げていきたい。また、地元の小学生と連携し、食育活動を行った（ピザ作りなど）。子ども達の食や農作業への興味に繋げることができた。
25	吉岐市農協青年部	学童農園と農協青年部（児童の食育・農業後継者の育成並びに、農業への理解の促進）	青年部圃場にて、作物（水稻・さつまいも・野菜等）を作付し、児童に作物の生育から収穫まで農作業体験をさせた。収穫祭では教育機関および地域住民と交流を深めることができ、子ども達も農業や食に対する興味・関心が高まった。

②農業青年プロジェクト活動等支援事業（専門部会） 助成実績

【13団体 1,008,608円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	琴海青年農業者クラブ 作業受託班	地域農業の活性化をめざし農作業サポート隊 （作業受託）波及の体制作り	琴海地域農業維持・農業振興対策のため、ビニール張りの支援活動に取組んだ。さらに、環境制御を用いた農業の取り組み研修を行った。また、「三連水車の里あさくら」を視察し、各種農産物の出荷方法・販売方法を学んだ。
2	県央青年ボークラブ	生産性向上のための実証試験 （飼料添加物による雄豚の暑熱対策ほか）	ハーブ成分等を含んだ飼料添加物を肥育豚に給与したところ、猛暑であったものの順調に出荷できた。また、子宮の深部に注入する人工受精を実施したところ、産子数が1~2頭増加した。
3	牛友会	生産性向上のための実証試験 （飼料添加物による繁殖成績の向上ほか）	焼酎粕、海藻、ゼオライトを含む飼料添加物を哺育子牛に給与したところ、下痢は激減したが発育については改善が見られる子牛とそうでない子牛がいたため、再検討が必要。また、海藻を含む飼料添加物を給与シテルバイントを牛に塗ったところ、発情が強くなりやすくなり、発見の向上に繋がった。
4	長崎県茶業青年会	全国茶生産青年茶審査技術競技会の練習及び競技会 出場に向けての技術向上	各会員の技術取得によるレベルアップが図られ、選手も選抜され、協議会出場に向けて万全の体制を敷くことができた。
5	長崎西海地域養豚研究会	飼料の違いによる豚肉に含まれる不飽和脂肪酸数値 の比較	口どけに影響する不飽和脂肪酸含量を増加させるため、飼料米やめんくす等の食品産業残渣を活用することが有効であると理解。また、飼養管理方法により含有する脂肪酸の割合と食味の差を数値とアンケートで知ることにより、飼養管理の利点欠点を評価できた。
6	ながさきグリ茶研究会	GAPへの取り組み等による茶園管理改善の検討と 消費者への茶PR活動	GAPへの取り組みを進めて経営改善に繋げるため、基礎を学び、肥料・農業についての記帳を行った。また、鹿児島県での視察研修では、茶生産法人組織が取組むGAPの団体認証について、実際に茶園や茶工場を見せてもらい、意見交換を行った。消費者への茶PRは、消費拡大の他に消費者と直接対話することで大変勉強になった。
7	味っ子研究会	西海みかんの将来性を見据えた担い手の資質向上	定期的な生産対策講習会の開催やかんぎつ一斉果実分析を行い、栽培管理の先導的役割を担った。また、消費宣伝会（東京青果、宮果）に参加することで、消費地での消費者の考えを知り、これからの農業後継者としての役割を改めて認識する機会となった。
8	牛志会	分娩間隔の短縮・長期不受胎牛の改善 牛舎環境の改善	分娩前1ヶ月ビタミン投与（ピタロング）する事で、子宮回復および早期の発情を促した。また、牛舎環境改善として、アンモニア臭の軽減と乾燥の促進を促すリサイクルメイトを使用した。
9	県北和牛畜産会	会員の飼養管理技術の向上	講師を招き、和牛改良や繁殖管理システム、分娩間隔の短縮に関する勉強会やを行った。また、管外での視察研修を行ったことにより、各会員が自身の経営について考え、他会員との意見交換を行い、技術向上や会員間の結束力が向上した。
10	べべんこはーと	飼料作付けにおける石灰施肥の有効性の検証 （土壌改良および飼料作における作物の収量性、 栄養性の向上）	3ヶ所の試験区を設置し、飼料作付けにおける石灰施肥の有効性を検証した。タンパク質の合成については品種間差が考えられるが、石灰施肥を行うと、単位面積あたりのタンパク質量を上げ、高い単収が期待できる。そのため自給飼料活用の向上と飼料コストの低減に繋がる。
11	IFFの会	食農教育のための農業交流体験	保育園児へのサツマイモの芋植え・芋掘りを通じた食農教育を行った結果、子ども達に自ら植えた芋を収穫し、食する喜びを体験させることができた。また、農業に対する興味を持ってもらうことができた。
12	吉岐牛研究会	子牛の販売成績向上	家畜セリ市後に勉強会を開催し、結果の検討や情報・意見交換を行った。また飼料作物試験栽培として、イタリアンライグラスの品種比較を行ったところ、優秀な多収品種として利用推進を図るべきと感じた。また、畜産先進地の飼養技術・知識等の取得を目的とし、岡山県の優良肥育農家へ視察研修を行った。
13	長崎かんぎつ担い手ネットワーク	気温温暖化に対するうんしゅうみかんの果皮障害軽減技術の実証およびうんしゅうみかんの地球温暖化対策	近年の気候温暖化に対応するため、カルシウム剤、ジベレリン、プロヒドロジャスモン等の植物成長調整剤により浮皮、クラッキング、着色等の果皮障害の効果を軽減する栽培技術の実証を行った。

③農業青年プロジェクト活動支援事業（九州大会） 助成実績

【3団体 234,000円】

	申請者名	発表内容	
1	いさはや4Hクラブ諫早支部	長崎県産アボガドを作りたい ～みかん農家の挑戦～	全国青年農業者会議へ出場
2	長崎県三会4Hクラブ	試してみよう!「可給態窒素」の可能性!!	
3	千々石町農業研究会	1億 with 牛	全国青年農業者会議へ出場

④農業青年プロジェクト活動支援事業（地区連） 助成実績

【7団体 1,241,993円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎地区青年農業者連絡協議会	農産加工品の開発力の向上	茶業試験場でびわ葉茶の粉末を作成し、加工品の開発を行った。粉末の作成方法、特徴、課題を知り、びわ茶の試飲会を通して消費者のイメージを把握し、6次化アドバイザーの助言で加工品作成の考え方を知ることができた。
2	県央地区青年農業者連絡協議会	仲間づくりと地域農業への貢献・プロジェクト活動強化による資質の向上・学習活動の充実	農林技術開発センターを会場に研修会を開催。「農業の最新技術の現状と活用の取り組みについて」と題し、スマート農業を中心とした講義を受け、アシストスーツやドローンの実演、研究成果報告を聞いた。また、開発センター内の圃場で環境制御装置の説明を受けた。
3	島原半島地区青年農業者連絡協議会	発表大会等を通じた資質向上と仲間作り促進	プロジェクト活動や発表を通して会員相互のレベルアップを図るとともに、青年農業者間の連携を深め、組織活動や地域の活性化に繋げるため、スポーツ交流会および消費者等交流事業を行った。
4	県北地区青年農業者連絡協議会	仲間づくりと連携の強化・プロジェクト活動等による資質向上	会員の農業経営内容の視察や、新規会員激励会等を行い、連携を強化した。
5	五島地区青年農業者連絡協議会	会員相互の連携強化のための仲間づくり・消費者及び関係機関との交流など	新規就農者激励・スポーツ交流会を開催し、新規就農者を激励するとともに会員間の交流を図り、県連行事に参加することで、他地区の青年農業者との交流を行った。
6	杵岐地区青年農業者連絡協議会	青年農業者グループの活動促進・グループ活動状況・研究成果の交換および紹介など	農業士との意見交換会や対馬4Hとの交流、および新規就農者確保のための意見交換会を行った。
7	対馬地区青年農業者連絡協議会	農産物直売会による地域の活性化及び青年農業者の活動PR・先進地視察による青年農業者の経営力向上に向けた技術の研鑽	農産物直売会の販売品目は、消費者42名へのアンケート結果をもとに作付し、13品を販売。販売会を通して消費者ニーズの情報収集をした。杵岐青年農業者との意見交換を通じ、対馬にはない品目についても学んだ。

⑤農業青年プロジェクト活動支援事業（県連） 助成実績

【1団体 300,000円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎県青年農業者連絡協議会	青年農業者グループ活動を促進し、地域農業の発展と農家の経営、生活の改善を図る	県連行事打ち合わせ、プロジェクト発表・意見発表等

⑥青年農業者活動支援事業

助成実績

【1団体 730,000円】

申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1 長崎県青年農業者連絡協議会	各県会長会議、次年度開催県研修会、リーダー研修会等の各種研修会へ参加し、自己研鑽を図るとともに、他県青年クラブ会員との連携による運営協力を行う	各県会長会議、リーダー研修会、各種研修会の運営や全国青年農業者会議等への参加により、自己研鑽を図るとともに、他県青年クラブ会員と交流することができた。

⑦担い手活動促進事業

助成実績

【11団体 2,838,000円】

申請者名	事業内容	活動内容の結果
1 長崎西彼農業士連絡協議会	担い手への支援活動推進、農村における男女参画社会の形成を目指す ほか	各研修会（青年・九州沖縄農業士等）や北海道農業士との交流および農大生の受入れ・新規就農者への現地指導等を行った。
2 県央地区農業士協議会	担い手への支援活動推進、農村における男女参画社会の形成を目指す ほか	各研修会（九州沖縄農業士・県農業士連絡協議会等）や農大生および農業就業体験受入れ・青年農業者発表会支援等を行った。今年の九州沖縄農業士研修会は諫早市で開催され、現地研修を計画、実施した。
3 島原半島農業士会	農業後継者の育成指導、農業・農村の男女共同参画の推進など	各研修会（九州沖縄農業士・島原半島農業士会等）や農大生の受入れ、新規就農者との交流会を行った。
4 県北農業士会	地域で活動する青年への支援と後継者の確保、育成および地域農業の振興を図る	各研修会（九州沖縄農業士・県北農業士会等）や農大生の派遣研修受入れ、および就農促進研修会を行った。
5 五島地区農業士会	後継者の育成及び男女共同参画推進・会員相互の連携強調・情報交換の強化	各研修会（九州沖縄農業士・農山漁村男女共同参画推進セミナー等）に参加し、グループ員の資質向上を図り、新規就農者激励会等により農業青年の育成を行った。
6 杵岐農業士協議会	新規参入者支援、担い手女性への支援活動および農村における男女共同参画社会の形成を目指す ほか	各研修会（九州沖縄農業士・杵岐農業士協議会等）や農業青年の育成および、漁業士との連携活動を行った。
7 対馬市農業士会	青年農業者等への助言・意見交換・研修会など	各研修会（九州沖縄農業士・対馬市農業士会等）や新規就農者への技術のフォロー、就農相談会、小学生の総合学習の支援等を行った。
8 JA長崎県女性組織協議会	食と農で地域を元気に仲間つくりと次代のリーダー育成など	地域の食・農・暮らしを支えてきた女性部組織の強みを共有・アピールしながら「住みよい地域社会づくり」を目指す活動を展開するとともに、JA自己改革についての理解を深めた。
9 長崎県農協青年部協議会	次世代リーダー育成・青年部盟友の所得向上広報活動の強化	組織力の強化、活動の活性化を図るための重点取組として、活動内容の目的検討会議を開き、各単組盟友が抱える問題の洗い出し、課題解決策を討議し、ポリシーブックの改訂に繋げる取組みを実施した。
10 長崎県農業士連絡協議会	就農希望者の受入・経営・技術の指導 青年農業者の資質向上など	九州沖縄農業士研修会、担い手育成研修会を行った。担い手育成研修会には初めて農大生に参加してもらったが、農業士も自らの経営に基づいたアドバイスを行うとともに、若い世代の意見を聞き刺激を受けていた。
11 長崎県農業高等学校 農業後継者育成連絡協議会	中学生を対象とした就農意欲喚起体験入学の開催	中学生 延べ1,377名が就農意欲喚起体験入学に参加。学校概要の説明、施設設備等の見学および実習の体験学習を通して、中学生の農業教育に対する理解の向上を図り、進路選択の参考にってもらうことができた。

⑧漁業士等実践活動支援事業

助成実績

【1団体 2,740,000円】

申請者名	事業内容	活動内容の結果
1 長崎県漁業士連絡協議会	漁業士会が実施する活動等に対する支援（各地区漁業士会が行う実践活動及び視察研修、学習会等に対する支援）	他地区・他県の漁業者及び異業種との交流や魚食普及等のイベント実施、機器メンテナンスや技術向上、情報発信等の学習会の開催、水産教室の実施（県下58回）、視察研修を実施した。